

Windows Small Business Server 2011

インストール補足説明書

for Express5800/ GT110d, GT110d-S

Microsoft、Windows、Windows Server、Active Directory、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、TM、® は明記しておりません。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

無断転載を禁じます。

本書または本書に記述されている製品や技術に関して、日本電気株式会社またはその関連会社が行う保証については、当該製品または技術の提供に適用されるライセンス契約が適用されます。

目次

1 セットアップをはじめる前に	- 3 -
■ インストール可能な Windows OS	- 3 -
■ サポート情報について	- 3 -
■ SBS2011 でサポートしている大容量記憶装置コントローラ	- 4 -
■ SBS2011 でサポートしているオプションの LAN ボード	- 4 -
■ 「EXPRESSBUILDER」 DVD について	- 4 -
2 セットアップ前の確認事項	- 5 -
3 プリインストールモデルのセットアップ	- 6 -
■ セットアップを始める前に（購入時の状態）	- 6 -
■ セットアップの手順	- 7 -
4 リカバリ DVD-ROM からの再セットアップ	- 12 -
■ 再セットアップに必要なもの	- 12 -
■ 注意事項	- 12 -
■ RAID の設定	- 13 -
■ SBS2011 の 再セットアップ	- 19 -
5 RAID コントローラの設定	- 25 -
6 障害処理のためのセットアップ	- 26 -
■ メモリダンプ（デバッグ情報）の設定	- 26 -
■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法	- 31 -
■ ネットワークモニタのインストール	- 32 -
7 サーバの修復について	- 33 -
■ システム回復オプションを使用した修復	- 33 -
■ リカバリ DVD を使用した修復	- 35 -
8 クライアントの修復について	- 39 -
9 パラメータファイルの作成（RAID 構築）	- 40 -
■ パラメータファイルの作成	- 40 -
10 トラブルシューティング	- 45 -

1 セットアップをはじめる前に

本手順書は、プリインストールモデルのセットアップ、または再セットアップする方法について説明しています。

Windows Small Business Server 2011 Essentials をセットアップする前に、必ず最後までお読みください。



重要

BTO(工場組込み出荷)にて Windows のインストールを指定したときは、本機に Windows のプロダクトキーが記載された COA (Certificate of Authenticity) ラベルが貼りつけられています。



プロダクトキーは OS のインストールや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう取り扱いにご注意ください。剥がれて紛失したり汚れて見えなくなったりしたときも、ラベルの再発行はできません。プロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒に保管されることをお勧めします。

■ インストール可能な Windows OS

以下の Windows OS (エディション) をサポートしています。

本書の表記	Windows OS の名称	サポート	
		GT110d	GT110d-S
SBS 2011	Windows Small Business Server 2011 Essentials	○	○
	Windows Small Business Server 2011 Standard	—	—

○ : サポート対象
— : サポート対象外

■ サポート情報について

Windows Small Business Server 2011 Essentials のサポート情報は、下記サイトを参照してください。

<http://support.express.nec.co.jp/os/sbs2011/>

■ SBS2011 でサポートしている大容量記憶装置コントローラ

SBS2011 でサポートしている大容量記憶装置コントローラは、以下になります。

	GT110d	GT110d-S
LSI Embedded MegaRAID	○	○

○ : サポート対象
- : サポート対象外



上記 RAID コントローラ以外はサポートしていません。

■ SBS2011 でサポートしているオプションの LAN ボード

SBS2011 でサポートしているオプションの LAN ボードは、以下になります。

	GT110d	GT110d-S
N8104-134	○	○

○ : サポート対象
- : サポート対象外



上記 LAN ボード以外はサポートしていません。

■ 「EXPRESSBUILDER」 DVD について

「EXPRESSBUILDER」DVD は、次のときに使用します。

- RAID 構築 (SBS2011 の再セットアップ時)
- ハードウェア についての説明 (ユーザーズガイド) を参照する
- バンドルソフトウェアについての説明 (インストレーションガイド) を参照する
- LAN ドライバの設定については説明(インストレーションガイド - 1 章(3.6.2 LAN ドライバのセットアップ))を参照する



- 上記以外 (「EXPRESSBUILDER を使ったセットアップ」などの EXPRESSBUILDER に含まれるソフトウェア) の使用はサポートしていません。
- ネットワークアダプタのチーミング機能はサポートしていません。

2 セットアップ前の確認事項

セットアップを始める前に、ここで説明する注意事項について確認しておいてください。

BTO : プリインストールモデルのセットアップ

OS : リカバリ DVD-ROM からの再セットアップ

セットアップ	確認事項
--------	------

注意すべきハードウェア構成

次のようなハードウェア構成においては特殊な手順が必要となります。

BTO **OS** SBS2011 のバックアップ

- SBS2011 サーバのバックアップをおこなうとき、バックアップ専用の論理ドライブを用意する必要があります。

OS 用	論理ドライブ #1
バックアップ用	論理ドライブ #2

OS インストール用の論理ドライブは、160GB 以上で作成します。

- 論理ドライブの構成を変更するときは、変更する内容に応じてバックアップするドライブの設定を確認してください。

BTO **OS** RDX などの周辺機器

- SBS2011 のバックアップに内蔵データカードリッジ（RDX）は利用できません。
- 再セットアップ時、周辺機器によっては休止状態にする必要があります。それぞれの周辺機器の説明書を参照し、適切な状態にしてからセットアップしてください。

OS DAT や LTO、USB デバイス等のメディア

再セットアップ時、DAT や LTO、USB デバイス等のメディアはセットしないでください。

サービスパックの適用

サービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

BTO

OS

[PC サーバ] - [サポート情報] <http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>

3 プリインストールモデルのセットアップ

プリインストールモデルは、パーティションの設定、オペレーティングシステム、本製品が提供するソフトウェアがすべてインストールされています。



Scalable Networking Pack(SNP)機能が「無効」に設定されています。SNP 機能については、システム性能に影響を与える場合があるため、必ず下記サイトの SNP の詳細についての注意事項等を確認した上で設定してください。

<http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/snp.html>

※サイトは「Windows Server 2008 R2」を「SBS2011」と読み替えてください。

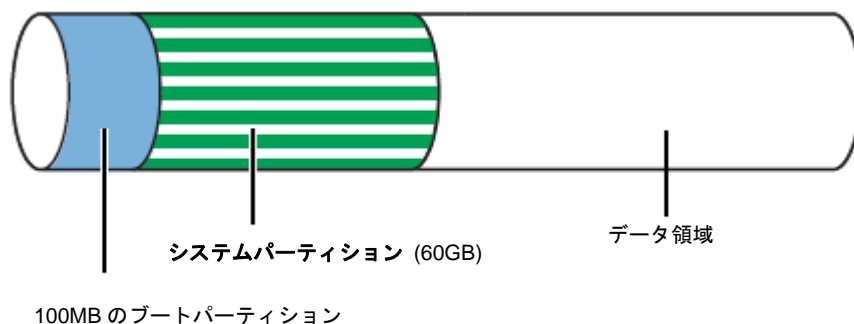
ここでは本製品で、初めて電源を ON するときのセットアップについて説明しています。

■ セットアップを始める前に（購入時の状態）

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本機のハードウェア構成やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、お客様によるご購入前のオーダー(BTO)によって異なります。

下図は、ハードディスクドライブのパーティション構成について図解しています。



■ セットアップの手順

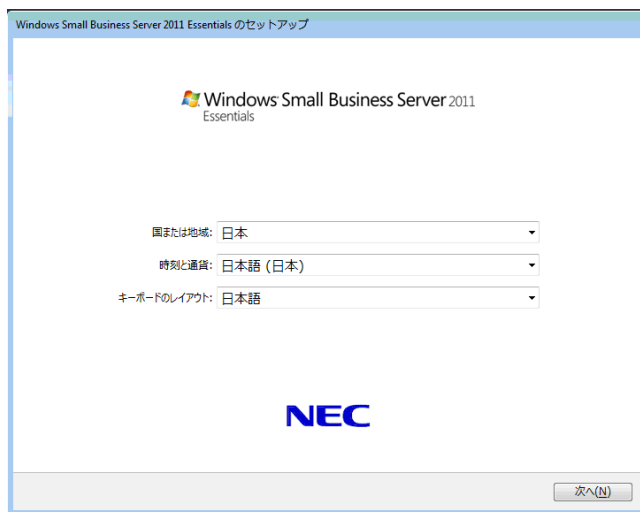
次の手順でセットアップします。



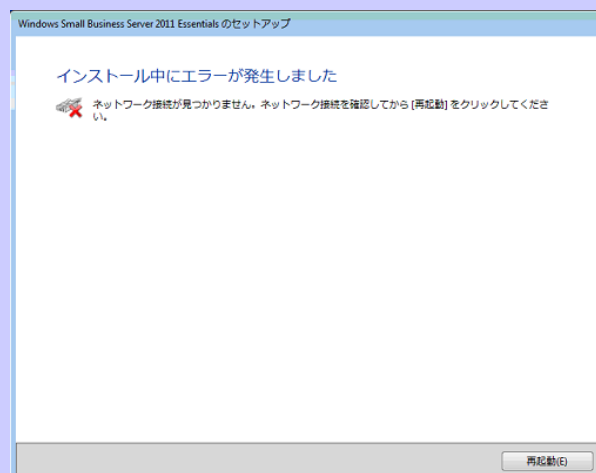
- セットアップは、ブロードバンドルーターまたはスイッチに有線で接続された環境下で行います。
- セットアップ完了するまでは、キーボード、マウス、ディスプレイ以外のデバイスを接続しないでください。

1. リムーバブルメディア、および光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認します。
2. 本機の電源を ON にします。
本機は自動的に POST を開始し、しばらくすると「Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ」画面が表示されます。

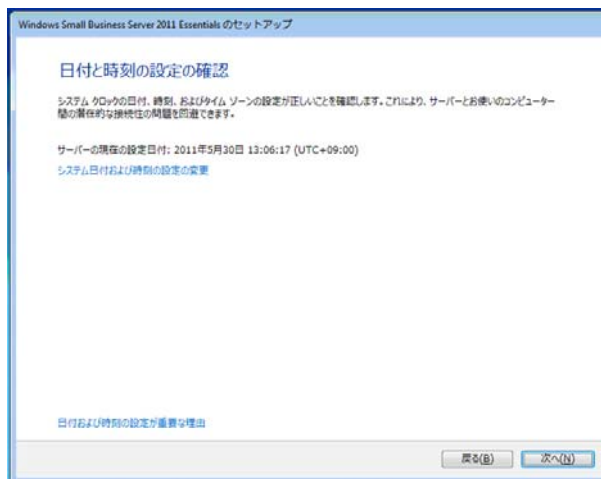
(1) 国または地域、時刻と通貨、キーボードのレイアウトを設定し [次へ] をクリックします。



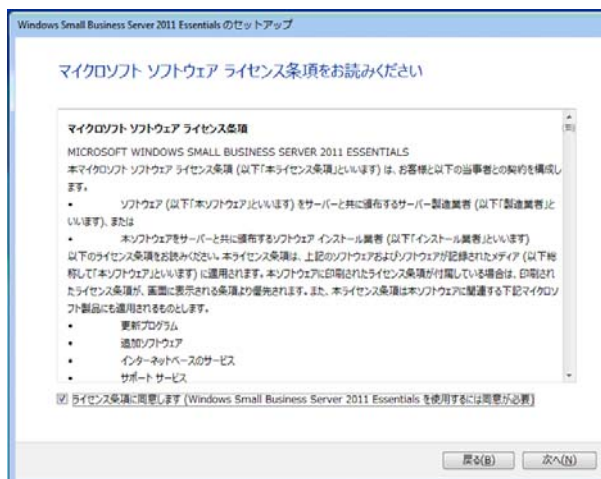
以下の画面が表示される場合は、ネットワーク接続を確認してください。



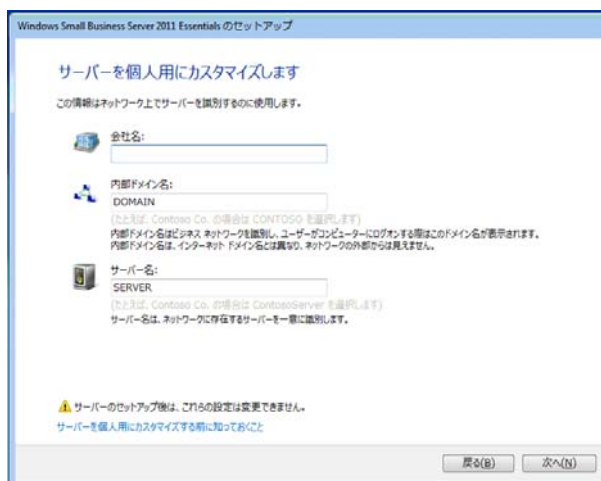
(2) 以下の画面では、日付と時刻の設定の内容を確認し「次へ」をクリックします。



(3) 以下の画面では、ライセンス条項を確認します。同意する場合は、「同意します」をチェックし、「次へ」をクリックします。



(4) 会社名、内部ドメイン名、サーバー名を入力し、「次へ」をクリックします。



画面下の「サーバーを個人用にカスタマイズする前に知っておくこと」をクリックし、事前に内容(アカウントの設定に関する注意など)を確認してください。

- (5) 管理者のアカウント名、パスワード（パスワードの確認）を入力し、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'Administrator account information' step of the Windows Small Business Server 2011 Essentials setup. The title bar reads 'Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ'. The main heading is '管理者情報を入力してください (アカウント 1/2)'. Below this, there is a small explanatory text about using a management account. The form contains three input fields: '管理者のアカウント名:' (Administrator account name), 'パスワード:' (Password), and 'パスワードの確認:' (Confirm password). At the bottom, there is a link 'この情報の選択方法' (How to select this information) and two buttons: '戻る(B)' (Back) and '次へ(N)' (Next).



- 管理者のアカウント名 に「Administrator」や「Admin」、「Guest」などは入力しないでください。
- 管理者のアカウント名 に「会社名」、「内部ドメイン名」、「サーバー名」を含めることはできません。
- 管理者のアカウント名、パスワード（パスワードの確認）で、3文字以上の重複する連続の文字を入力することはできません。

例えば、 以下の場合は「1 2 3」が重複しているため使用できません。

管理者名 : AAAbbb 1 2 3
パスワード : 1 2 3cccDDD

- (6) 標準のユーザー アカウント名、パスワード（パスワードの確認）を入力し、[次へ] をクリックします。

The screenshot shows the 'Standard user account information' step of the Windows Small Business Server 2011 Essentials setup. The title bar reads 'Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ'. The main heading is '標準のユーザー アカウント情報を入力してください (アカウント 2/2)'. Below this, there is a small explanatory text about using a standard user account. The form contains three input fields: '標準のユーザー アカウント名:' (Standard user account name), 'パスワード:' (Password), and 'パスワードの確認:' (Confirm password). At the bottom, there is a link 'この情報の選択方法' (How to select this information) and two buttons: '戻る(B)' (Back) and '次へ(N)' (Next).



- 標準のユーザー アカウント名 に「Administrator」や「Admin」、「Guest」などは入力しないでください。
- 標準のユーザー アカウント名 に「会社名」、「内部ドメイン名」、「サーバー名」を含めることはできません。

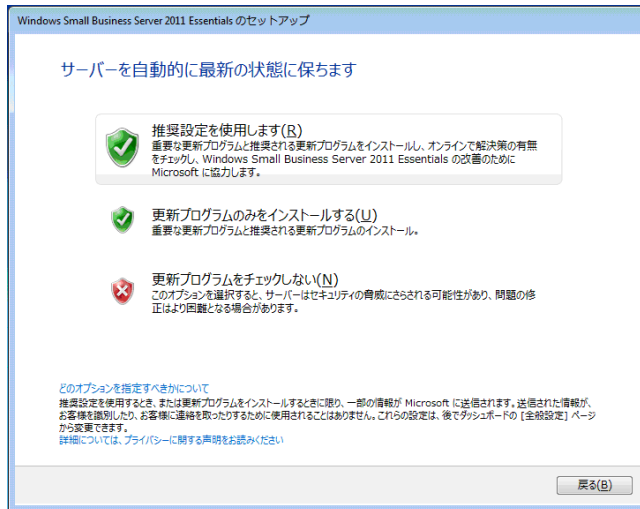
- 標準のユーザー アカウント名、パスワード（パスワードの確認）で、3文字以上の重複する連続の文字を入力することはできません。

例えば、 以下の場合は“1 2 3”が重複しているため使用できません。

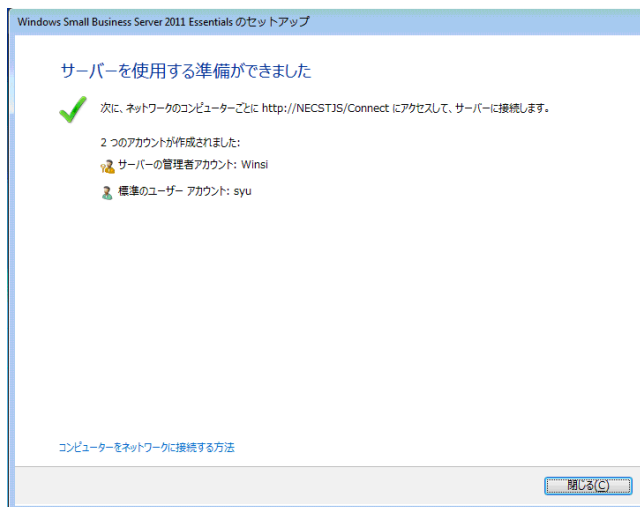
管理者名 : AAAbbb 1 2 3

パスワード : 1 2 3 cccDDD

(7) 以下の画面では、設定したい内容をクリックします。



(8) 以下の画面が表示されれば、SBS2011 のインストールは完了です。



3. Windows へログインします。
4. 必要に応じオプションに添付の説明書を参照し、オプションのドライバをインストールします。

5. バンドルソフトウェアの設定およびその確認をします。
インストール済みのバンドルソフトウェアは、たとえば次のようなソフトウェアがあります。

- 装置情報収集ユーティリティ
- ESMPRO/ServerAgent
- Universal RAID Utility
- エクスプレス通報サービス*
- エクスプレス通報サービス(HTTPS)*
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ(x86)
- Windows 7 Professional Pack for Small Business Server 2011
- Windows Small Business Server 2011 Essentials 用 更新プログラム ロールアップ 1 (KB2554629)



- Windows 7 Professional Pack for Small Business Server 2011 については、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。
<http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/details.aspx?FamilyID=bd3c4f66-4264-441c-b1b0-6f9218a82680>
- Windows Small Business Server 2011 Essentials 用 更新プログラム ロールアップ 1 (KB2554629)については、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/2554629>

上記で「*」印のあるものは、ご使用になる環境に合わせて設定または確認をしなければならないソフトウェアです。

EXPRESSBUILDER 内のドキュメントを参照し、使用環境に合った状態に設定してください。



- ESMPRO/ServerManager の [サーバ状態/構成情報] に表示される OS 名称で「Windows OS」と表示される箇所がありますが、「Windows Small Business Server 2011 Essentials」と読み替えてください。システム運用上、問題はありません。
- Universal RAID Utility について
論理ドライブを追加作成するときは、Universal RAID Utility を使います。
Universal RAID Utility を使った論理ドライブの作成については本機添付の EXPRESSBUILDER 内に格納されている、「Universal RAID Utility ユーザーガイド」を参照してください。

6. 本書の「障害処理のためのセットアップ」を参照し、障害処理のためのセットアップをします。



SBS2011 に関する詳細な情報は、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。

[Windows Small Business Server 2011 : SBS 手順書&ホワイトペーパー]
<http://www.microsoft.com/japan/sbs/technologies/document.mspx>

一般的なサーバ管理には、「ダッシュボード」を使用して下さい。

以上で、プリインストールモデルのセットアップは終了です。

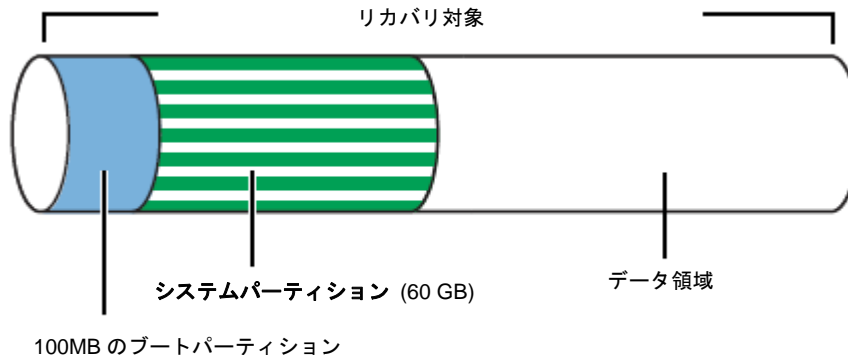
4 リカバリ DVD-ROM からの再セットアップ

ここでは、リカバリ DVD-ROM を使った SBS2011 の再セットアップについて説明します。



リカバリ DVD-ROM を使用することでプリインストールモデルをご購入した状態になりますが、すでにインストールの SBS2011 とデータ領域はフォーマット（初期化）されます。

再セットアップしたハードディスクドライブのパーティション構成は、プリインストールモデルと同じです。



■ 再セットアップに必要なもの

作業を始める前に、次のディスクや説明書を用意します。

- リカバリ DVD-ROM Windows® Small Business Server 2011 Essentials
再インストール用 Disc #1/1
(以降、「リカバリ DVD-ROM」と呼ぶ)
- Windows Small Business Server 2011 インストール補足説明書
for Express5800/ GT110d, GT110d-S (本書)
- 「EXPRESSBUILDER」DVD
(RAID を構築するときや、ユーザズガイドなどを参照する場合に使用します)
- 以下は必要に応じて用意します。
 - RAID 設定パラメータファイル

■ 注意事項

リカバリ DVD-ROM からの再セットアップ時は装置標準の周辺機器以外は接続しないでください。

装置標準の周辺機器

- | | | |
|---------|--------------|----------|
| ● 電源コード | ● DVD ドライブ装置 | ● ディスプレイ |
| ● キーボード | ● マウス | |

■RAID の設定

再セットアップする前に、あらかじめ「EXPRESSBUILDER」DVD を使用し RAID を構築します。RAID 構築済みの環境では、RAID の設定は不要です。次項「■ リカバリ DVD-ROM からのインストール手順」へ進んでください。



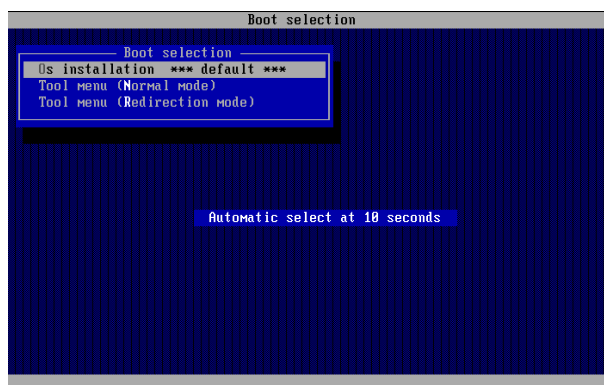
ハードディスクドライブのすべての内容が削除されます。
必要に応じてユーザーデータのバックアップを取ることを強く推奨します。

1. 周辺機器、本機の順に電源を ON にします。
2. EXPRESSBUILDER を起動します。

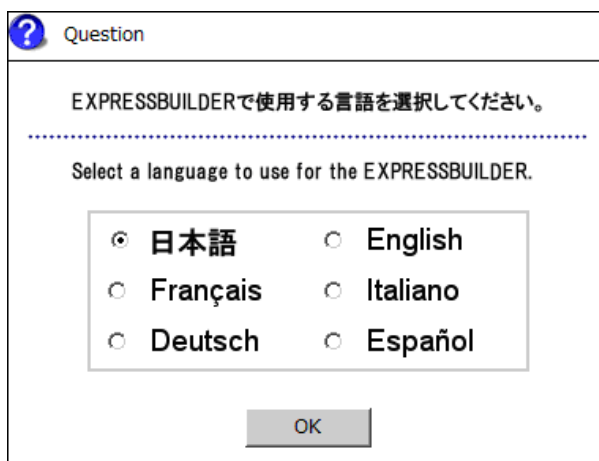


メディアをドライブにセットして電源を ON にするか、または
<Ctrl>+<Alt>+<Delete> キーで本機を再起動させてください。
EXPRESSBUILDER が DVD からブートします。

3. 以下のブートメニューでは、「Os installation *** default ***」を選択します。
(何もキー入力がない場合でも、自動的に手順 4 の画面へ進みます)



4. 「日本語」を選択し [OK] をクリックします。



5. Windows PE のソフトウェア使用許諾契約の内容を確認し、[はい] をクリックします。



本内容に同意しないと、EXPRESSBUILDER を使うことができません。

6. トップメニューでは、[セットアップする] を選択し、[次へ] をクリックします。



7. セットアップ選択メニューでは、次の手順にしたがってパラメータを設定します。

- ☐ パラメータファイルを使用しない場合 : 手順 8 へ
- ☐ パラメータファイルを使用する場合 : 手順 9 へ



再セットアップのときは、保存しておいたパラメータファイルを読み込ませることで、ウィザードによるパラメータ入力を省略できます。

8. パラメータファイルを使用しない場合は、[RAID 構築のみ実施する] を選択し、[次へ] をクリックします。

→ 手順 10 へ



9. パラメータファイルを使用する場合は、[パラメータファイルを読み込む] を選択し、[次へ] をクリックします。

画面の指示にしたがってパラメータファイルを読み込んでください。



必要に応じてパラメータ設定メニューで設定内容を確認し、[次へ] をクリックします。

→ 手順 13 へ





パラメータファイルのパスおよびファイル名には日本語は使用しないでください。

10. パラメータ設定メニューからセットアップについてのパラメータを設定します。
[設定] をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。



10-1 RAID の設定

接続された RAID コントローラを自動認識して RAID システムを構築します。
RAID の設定は、パラメータ設定メニューの [RAID の設定] ウィザードで行います。



- (1) 「RAID の設定」の [設定] をクリックします。
(2) ウィザードにしたがって論理ドライブを設定します。



- ウィザードを進めると既存の RAID は破棄され、ハードディスクの内容はすべて失われます。
- 論理ドライブ 1 は、160GB 以上のサイズで作成してください。

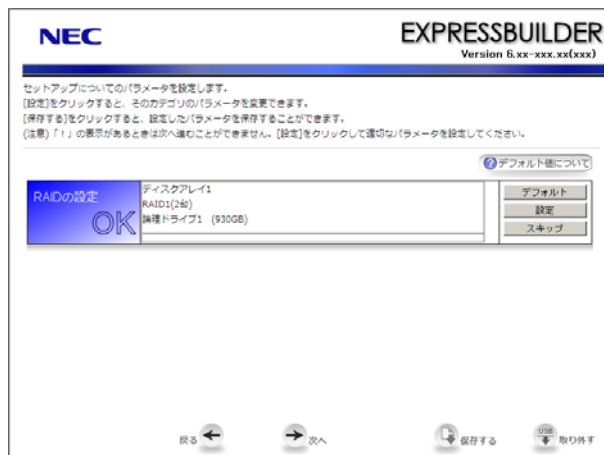
11. パラメータ設定メニューで、パラメータを保存します。
[保存する]をクリックし、画面の指示にしたがってパラメータファイルを保存してください。



パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。

パラメータファイルを保存しない場合は、手順 12 へ 進んでください。

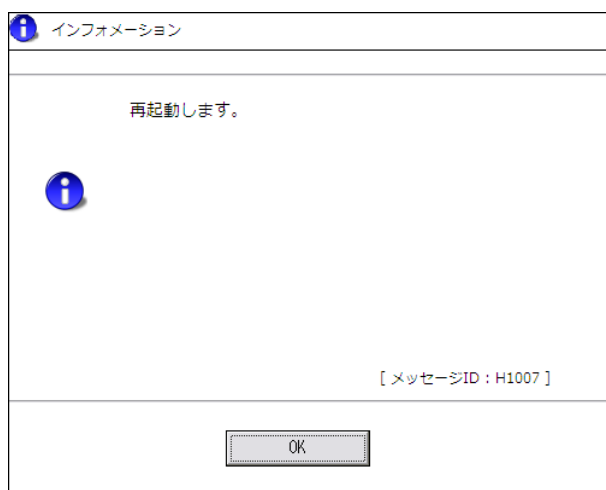
12. パラメータ設定メニューで [次へ] をクリックします。



13. 以下の画面でセットアップの概要を確認し、[実行する] をクリックします。



14. RAID の構築が完了後、以下のメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。



EXPRESSBUILDER が終了し、本機が再起動します。
「EXPRESSBUILDER」DVD を本機から取り出してください。

■ SBS2011 の 再セットアップ

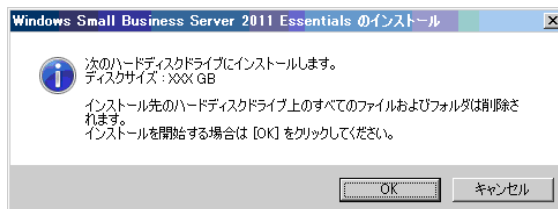
リカバリ DVD-ROM を使って SBS2011 を再セットアップする手順は次のとおりです。

1. 本機の電源を ON にします。
2. 本機の光ディスクドライブに [リカバリ DVD-ROM] をセットします。
3. リカバリ DVD-ROM を光ディスクドライブにセットしてから、リセットする（<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す）か、電源を OFF/ON してシステムを再起動します。
4. WinPE が起動します。
ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」と表示がされている間に<Enter>キーを押してください。
起動可能な OS が存在しない場合は不要です。



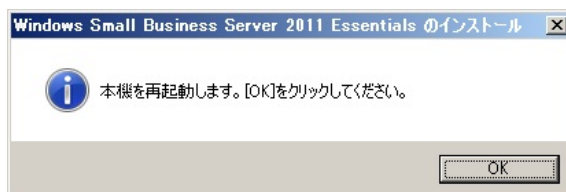
リカバリ DVD-ROM から起動しない場合は、BIOS の設定でブート順位が優先になっていない可能性があります。BIOS の設定でブート順位を変更してください。

5. 以下のメッセージでは、[OK] をクリックします。



メッセージに表示される「ディスクサイズ」は、論理ドライブ 1 が自動的に選択されます。

6. OS インストール完了後、
「本機を再起動します。[OK] をクリックしてください。」と表示されたら [OK] をクリックします。リカバリ DVD-ROM は取り出します。

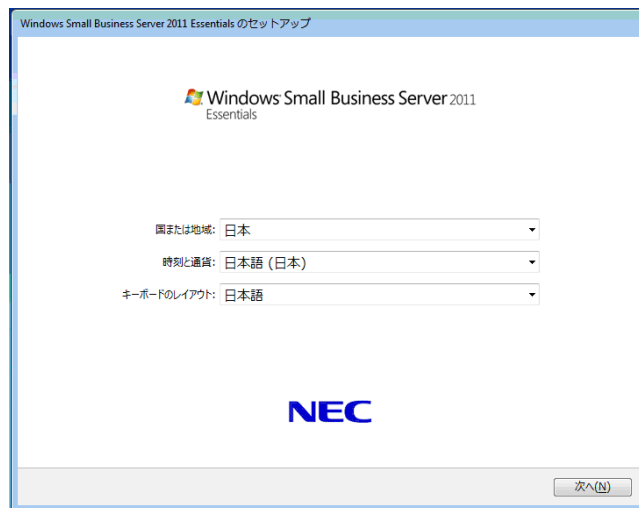


7. 本機は自動的に再起動後 POST を開始し、しばらくすると「Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ」画面が表示されます。

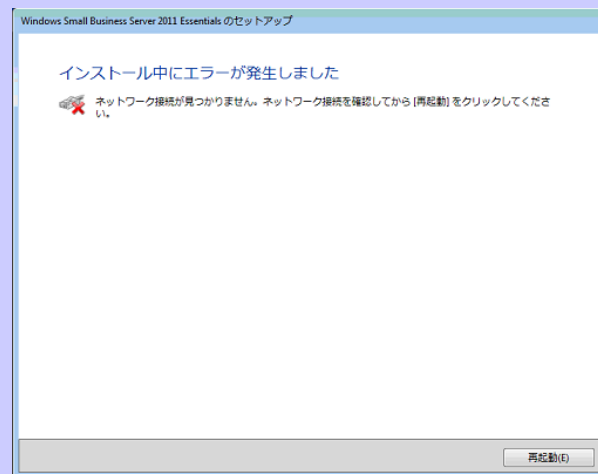


- セットアップは、ブロードバンドルーターまたはスイッチに有線で接続された環境下で行います。
- セットアップ完了するまでは、キーボード、マウス、ディスプレイ以外のデバイスを接続しないでください。

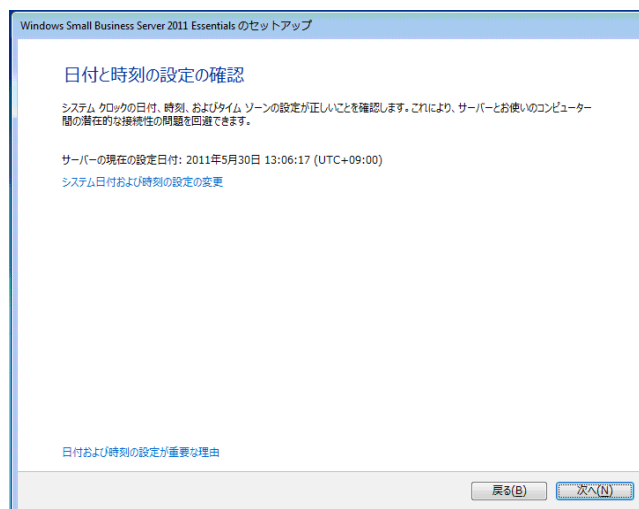
- (1) 国または地域、時刻と通貨、キーボードのレイアウトを設定し [次へ] をクリックします。



以下の画面が表示される場合は、ネットワーク接続を確認してください。



- (2) 以下の画面では、日付と時刻の設定の内容を確認し [次へ] をクリックします。



- (3) 以下の画面では、ライセンス条項を確認します。
同意する場合は、[同意します] をチェックし、[次へ] をクリックします。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項をお読みください

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

MICROSOFT WINDOWS SMALL BUSINESS SERVER 2011 ESSENTIALS

本マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項 (以下「本ライセンス条項」といいます) は、お客様と以下の当事者との契約を構成します。

- ソフトウェア (以下「本ソフトウェア」といいます) をサーバーと共に頒布するサーバー製造業者 (以下「製造業者」といいます)、または
- 本ソフトウェアをサーバーと共に頒布するソフトウェア インストール業者 (以下「インストール業者」といいます)

以下のライセンス条項をお読みください。本ライセンス条項は、上記のソフトウェアおよびソフトウェアが記録されたメディア (以下総称して「本ソフトウェア」といいます) に適用されます。本ソフトウェアに印刷されたライセンス条項が付属している場合は、印刷されたライセンス条項が、画面に表示される条項より優先されます。また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

- 更新プログラム
- 追加ソフトウェア
- インターネットベースのサービス
- サポート サービス

☒ ライセンス条項に同意します (Windows Small Business Server 2011 Essentials を使用するには同意が必要)

戻る(B) 次へ(N)

- (4) 会社名、内部ドメイン名、サーバー名を入力し、[次へ] をクリックします。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ

サーバーを個人用にカスタマイズします

この情報はネットワーク上でサーバーを識別するのに使用します。

会社名:
[Text Input Field]

内部ドメイン名:
DOMAIN
(たとえば、Contoso Co. の場合は CONTOSO を選択します)
内部ドメイン名はビジネス ネットワークを識別し、ユーザーがコンピュータにログインする際はこのドメイン名が表示されます。
内部ドメイン名は、インターネット ドメイン名とは異なり、ネットワークの外からは見えません。

サーバー名:
SERVER
(たとえば、Contoso Co. の場合は ContosoServer を選択します)
サーバー名は、ネットワークに存在するサーバーを一覧に識別します。

サーバーのセットアップ後は、これらの設定は変更できません。
サーバーを個人用にカスタマイズする前に知っておくこと

戻る(B) 次へ(N)

- (5) 管理者のアカウント名、パスワード (パスワードの確認) を入力し、[次へ] をクリックします。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ

管理者情報を入力してください (アカウント 1/2)

管理者アカウントを使用して、サーバーにログインして管理します。ネットワークを保護するため、管理者アカウントを使用するのは、管理者特権が必要となる管理タスクを実行しなければならない場合だけにします。

管理者のアカウント名:
[Text Input Field]

パスワード:
[Text Input Field]

パスワードの確認:
[Text Input Field]

この情報の選択方法

戻る(B) 次へ(N)



- 管理者のアカウント名 に「Administrator」や「Admin」などは入力しないでください。
- 管理者のアカウント名に「会社名」、「内部ドメイン名」、「サーバー名」を含めることはできません。
- 管理者のアカウント名、パスワード（パスワードの確認）で、3文字以上の重複する連続の文字を入力することはできません。

例えば、 以下の場合は“1 2 3”が重複しているため使用できません。

管理者名 : AAAbbb 1 2 3
パスワード : 1 2 3cccDDD

- (6) 標準のユーザー アカウント名、パスワード（パスワードの確認）を入力し、[次へ] をクリックします。

Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ

標準のユーザー アカウント情報を入力してください (アカウント 2/2)

ネットワークを保護するため、標準のユーザー アカウントを使用してネットワークにログインし、共有フォルダーへのアクセスなどの日常的な標準タスクを実行します。管理者アカウントを使用するのは、管理者特権が必要となる管理タスクを実行しなければならない場合だけにします。

標準のユーザー アカウント名:

パスワード:

パスワードの確認:

[この情報の選択方法](#)

戻る(B) 次へ(N)

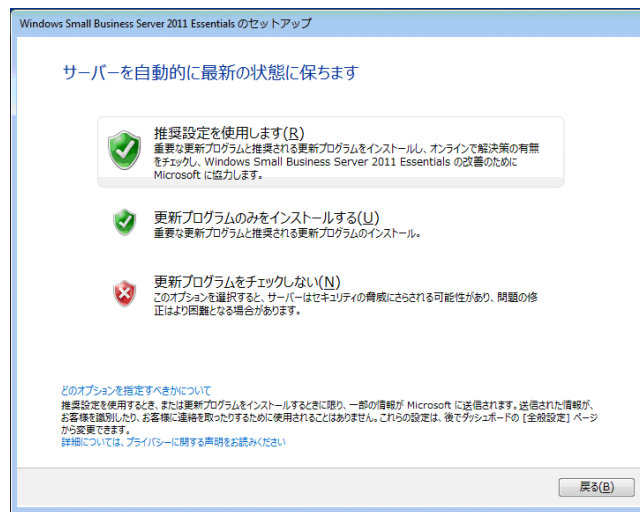


- 標準のユーザー アカウント名 に「Administrator」や「Admin」などは入力しないでください。
- 標準のユーザー アカウント名 に「会社名」、「内部ドメイン名」、「サーバー名」を含めることはできません。
- 標準のユーザー アカウント名、パスワード（パスワードの確認）で、3文字以上の重複する連続の文字を入力することはできません。

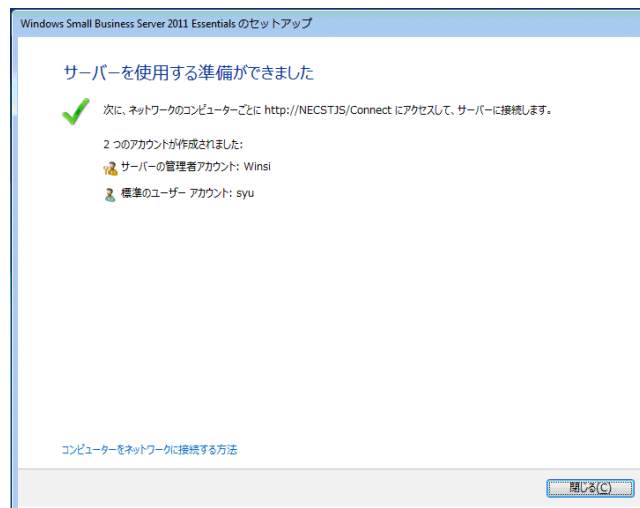
例えば、 以下の場合は“1 2 3”が重複しているため使用できません。

管理者名 : AAAbbb 1 2 3
パスワード : 1 2 3cccDDD

(7) 以下の画面では、設定したい内容をクリックします。



(8) 以下の画面が表示されれば、SBS2011 のインストールは完了です。



8. Windows へログオンします。
9. 必要に応じオプションに添付の説明書を参照し、オプションのドライバをインストールします。
10. バンドルソフトウェアの設定およびその確認をします。
インストール済みのバンドルソフトウェアは、たとえば次のようなソフトウェアがあります。

- 装置情報収集ユーティリティ
- ESMPRO/ServerAgent
- Universal RAID Utility
- エクスプレス通報サービス*
- エクスプレス通報サービス(HTTPS) *
- Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再頒布可能パッケージ(x86)
- Windows 7 Professional Pack for Small Business Server 2011
- Windows Small Business Server 2011 Essentials 用 更新プログラム ロールアップ 1 (KB2554629)



- Windows 7 Professional Pack for Small Business Server 2011 については、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。
<http://www.microsoft.com/downloads/ja-jp/details.aspx?FamilyID=bd3c4f66-4264-441c-b1b0-6f9218a82680>
- Windows Small Business Server 2011 Essentials 用 更新プログラム ロールアップ 1 (KB2554629)については、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/2554629>

上記で「*」印のあるものは、ご使用になる環境に合わせて設定または確認をしなければならないソフトウェアです。

EXPRESSBUILDER 内のドキュメントを参照し、使用環境に合った状態に設定してください。



- ESMPRO/ServerManager の [サーバ状態/構成情報] に表示される OS 名称で「Windows OS」と表示される箇所がありますが、「Windows Small Business Server 2011 Essentials」と読み替えてください。システム運用上、問題はありません。
- Universal RAID Utility について
論理ドライブを追加作成するときは、Universal RAID Utility を使います。Universal RAID Utility を使った論理ドライブの作成については本機添付の EXPRESSBUILDER 内に格納されている、「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

11. 本書の「RAID ドライバの設定」を参照し、RAID のパトリールリードの実行を無効に設定します。

12. 本書の「障害処理のためのセットアップ」を参照し、障害処理のためのセットアップをします。



SBS2011 に関する詳細な情報は、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。

[Windows Small Business Server 2011 : SBS 手順書&ホワイトペーパー]
<http://www.microsoft.com/japan/sbs/technologies/document.mspx>

一般的なサーバ管理には、「ダッシュボード」を使用して下さい。

以上で、SBS2011 の再セットアップは終了です。

5 RAID コントローラの設定

以下の手順にしたがい、RAID コントローラ のパトロールリード機能を無効に設定してください。

1. 管理者権限のあるアカウントで、システムにログオンします。
2. スタートメニューから、[すべてのプログラム]、[Universal RAID Utility] の順にポイントし、[RAID ビューア] をクリックします。
3. RAID ビューアの [ツール] メニューで [アドバンスモード] をクリックします。
「RAID システム管理モードをアドバンスモードへ変更します。」のメッセージが表示されるので [はい] をクリックします。



RAID ビューアを [アドバンスモード] で起動している場合は、この操作は必要ありません。

4. RAID ビューア画面左のツリービューで RAID コントローラをクリックし、[ファイル] メニューで [プロパティ] をクリックします。
5. [RAID コントローラのプロパティ] で、[オプション] タブをクリックします。
[パトロールリード] の値を確認します。
6. [パトロールリード] の設定が [有効] の場合には、[無効] に変更し、[OK] もしくは [適用] をクリックします。
なお、[パトロールリード] の設定が [無効] の場合は不要です。

以上で、RAID コントローラの設定は完了です。

6 障害処理のためのセットアップ

運用上問題などが起きたとき、より早く、確実に復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしてください。

■ メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

メモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。



- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できないことがあります。

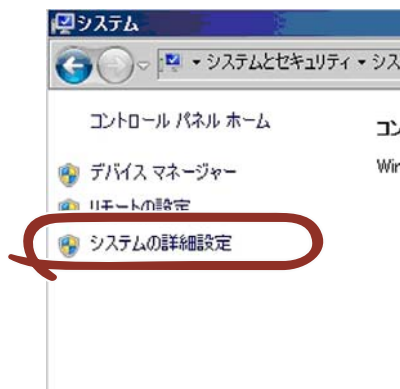
次の手順にしたがって設定します。

1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックします。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル] ウィンドウから [システムとセキュリティ] をクリックします。



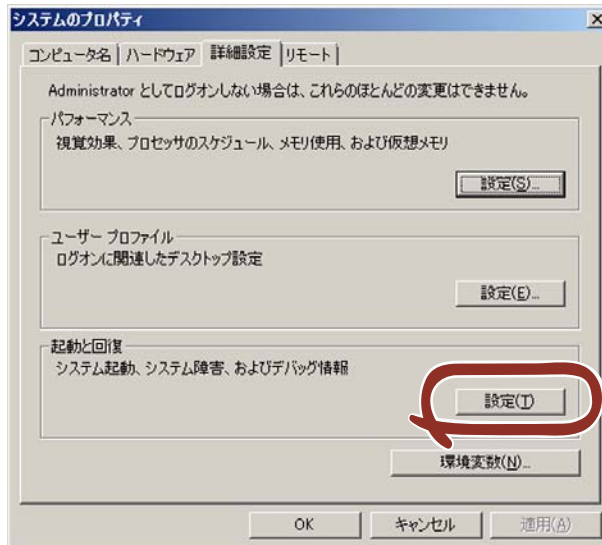
[表示方法] が [カテゴリ] 以外の場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

3. [システム] をクリックします。
4. [システムの詳細設定] をクリックします。



[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

5. 「起動と回復」の「設定」をクリックします。



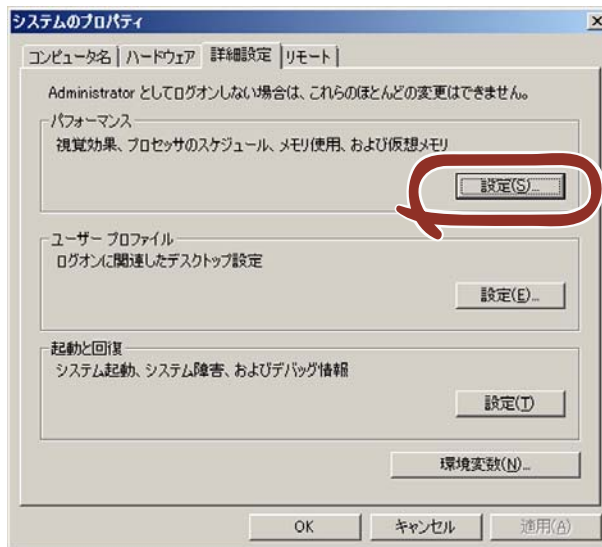
6. 「ダンプファイル」のテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックします。

<D ドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

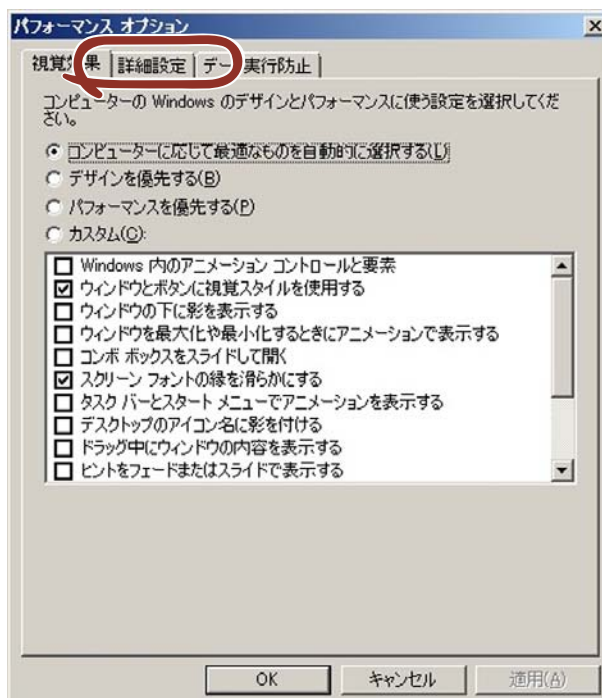


- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本機に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

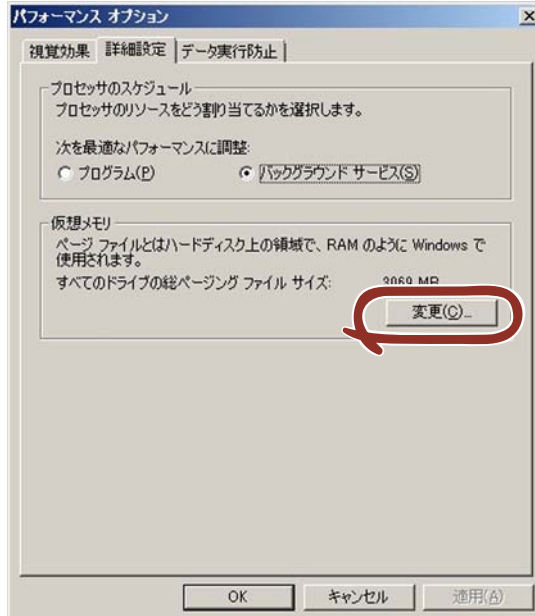
7. [パフォーマンス] の [設定] をクリックします。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



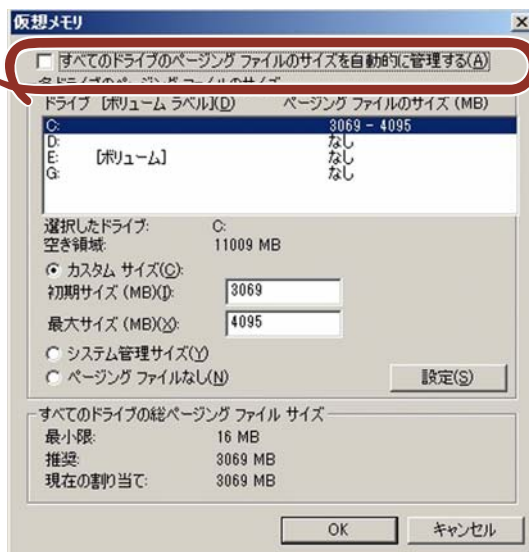
8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックします。



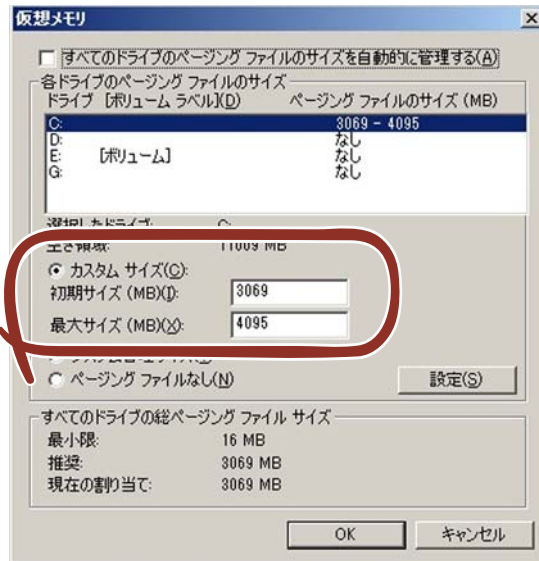
9. 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。



10. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックボックスのチェックをはずし、「カスタムサイズ」にチェックします。



11. [各ドライブのページングファイルのサイズ] の[初期サイズ] を[すべてのドライブの総ページングファイルサイズ] に記載されている推奨値以上に、[最大サイズ] を[初期サイズ] 以上に変更し、[設定] をクリックします。



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。Windows パーティションには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。



搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み（メモリダンプ種別）に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ+300MB」です。

12. [OK] をクリックします。
設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。
メッセージにしたがって再起動してください。

以上で完了です。

■ ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝えるポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. タスクバー上の空いている場所を右クリックして[タスク マネージャ]をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押して、[タスクマネージャ] を起動します。
2. [プロセス] タブをクリックします。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプファイルの作成] をクリックします。
4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

C:\Users¥(ユーザー名)\AppData\Local\Temp



上記のフォルダは隠し属性となっているときがあります。フォルダが表示されないときは、エクスプローラの [整理] から [フォルダーと検索のオプション] を選択し、[表示] タブから [隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] をチェックする。

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記 4.のフォルダより取得してください。ユーザーモードプロセスダンプの取得方法の詳細は、以下の Microsoft 社のサポート技術情報を参照してください。

「Windows Server 2008 でユーザーモードプロセスダンプを取得する方法」

<http://support.microsoft.com/kb/949180/ja>



ワトソン博士は[問題のレポートと解決策]に変更されており、従来のワトソン博士によるクラッシュダンプファイルを取得することができません。クラッシュダンプファイルと同等レベルの情報は、上記の方法で取得できます。

以上で完了です。

■ ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。

□ ネットワークモニタのセットアップ手順 □



ネットワークトレースを採取するためには、Microsoft 社より提供されております Microsoft Network Monitor をセットアップする必要があります。

- (1) Microsoft 社の Web サイトよりネットワークモニタをダウンロードします。
<http://support.microsoft.com/kb/933741/en-us>
- (2) ダウンロードしたファイルを実行して、インストーラを起動します。
画面の指示にしたがってインストールを実施してください。



[セキュリティの警告] ポップアップが表示された場合は、[実行] をクリックしてください。
セットアップ形式を選択する画面では、[Complete] を選択してください。

以上でネットワークモニタのセットアップは完了です。



ネットワークモニタを削除する場合は、[プログラムと機能] から行います。

□ ネットワークトレースの採取手順 □

- (1) スタートメニューから Microsoft Network Monitor を起動します。
- (2) [Start Page]から、[Create a new capture tab...] もしくは[File]メニューの[New]を展開し、[Capture...]をクリックします。

新たにネットワークトレース採取用のタブが作成されます。
- (3) [Select Networks]ウィンドウで採取対象のネットワークを選択します。
- (4) [Capture]メニュー上の[Start]をクリックしてネットワークトレースの採取を開始します。
- (5) [Capture]メニュー上の[Stop]をクリックしてネットワークトレースの採取を終了します。
- (6) [File]メニューの[Save As...]を選択します。
[名前を付けて保存]ウィンドウが表示されますので、[Frame selection]内の[All captured frames]を選択後、適切なフォルダ、ファイル名を指定します。



既定では、以下のフォルダが指定されています。
C:\Users\%<User name>\Documents\Network Monitor 3\Captures

- (7) [保存]をクリックします。
手順(6) で指定したフォルダにファイルが作成されます。

以上でネットワークモニタのセットアップは完了です。

7 サーバの修復について

サーバの修復をするときは、事前にダッシュボード上の「サーバーのバックアップのセットアップ」から回復用のバックアップイメージが作成されている必要があります。

■ システム回復オプションを使用した修復

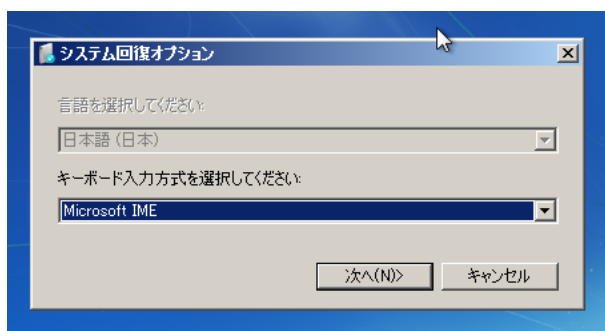
本機能は、バックアップからシステムを修復するときに使用します。

1. 本機の電源を ON にします。
POST 終了後 <F8>キーを押し、「詳細ブート オプション」を起動します。
起動後、「コンピューターの修復」を選択してください。

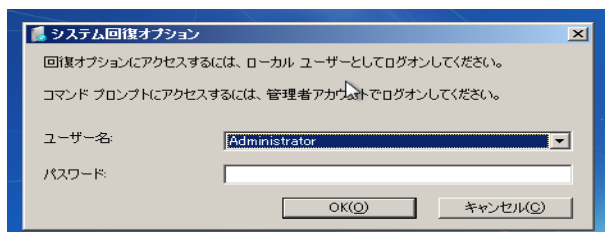


「コンピューターの修復」が起動できないときは、本書の“■ リカバリ DVD を使用した修復”を参照してください。

2. 次の画面が表示されたら、「キーボード入力方式」を選択し「次へ」をクリックします。

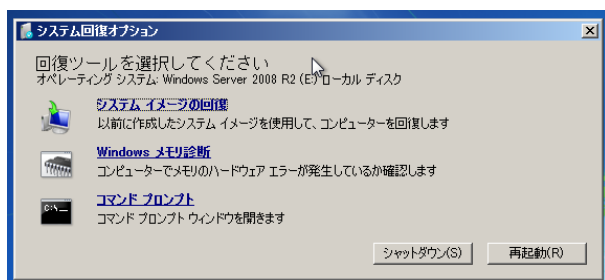


3. 次の画面で「Administrator」を選択し、パスワードを入力します。

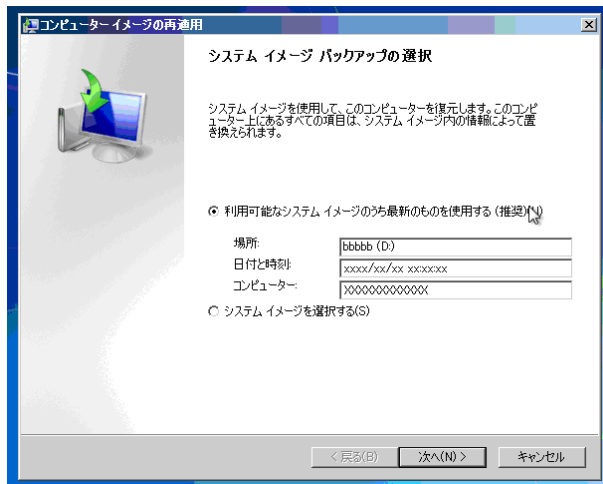


パスワード欄は SBS2011 セットアップ時に作成した「管理者アカウント」のパスワードを入力します。

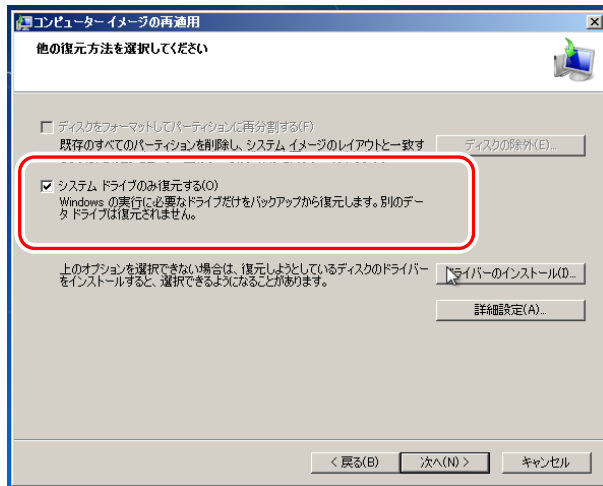
4. 次の画面が表示されたら、「システムイメージの回復」をクリックします。



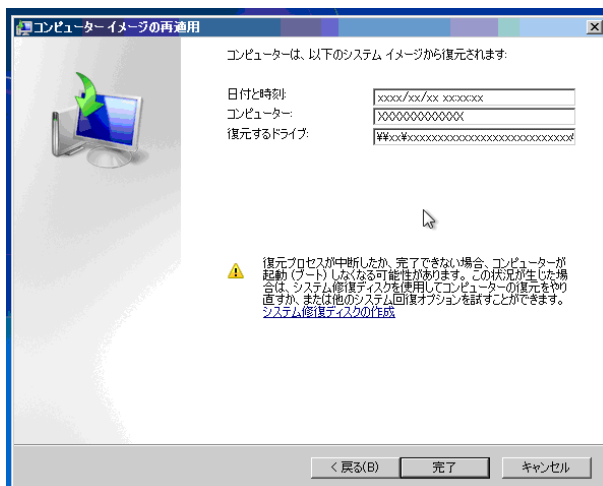
5. 次の画面でバックアップデータを選択し「次へ」をクリックします。



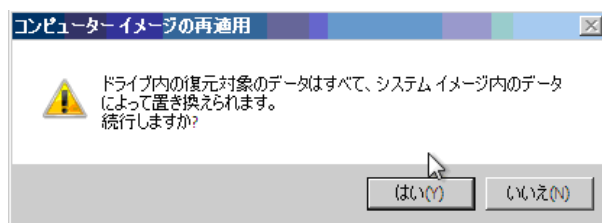
6. 次の画面が表示されたら、[システムドライブのみ復元する] にチェックを入れ [次へ] をクリックします。



7. 次の画面が表示されたらバックアップイメージを確認し、[完了]をクリックします。



8. 以下のメッセージが表示されたら内容を確認し、[はい] をクリックします。



以上で完了です。

■ リカバリ DVD を使用した修復

本機能は<F8>キーでシステム回復オプションが起動しない場合に使用します。



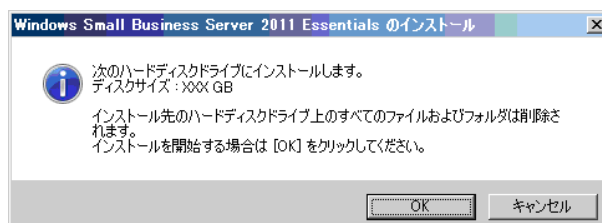
本手順で修復するときは、「サーバーのバックアップ」でバックアップした全てのファイルやフォルダを復元します。



本機能を使用するときは、次の条件が必要です。

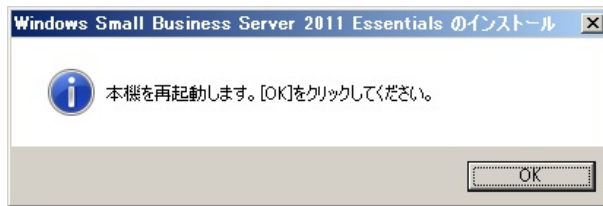
- 「サーバーのバックアップ」で作成したデータ領域を含むバックアップイメージが存在する。
- バックアップした環境と同じ環境へ復元する。
(ドライブやパーティションサイズなどが異なる環境への復元は出来ません。)

1. 本機の電源を ON にします。
2. 本機の光ディスクドライブに [リカバリ DVD-ROM] をセットします。
WinPE が起動します。
3. 以下のメッセージではディスクサイズを確認し [OK] をクリックします。
環境によってこととなりますが、この作業完了まで数十分程度かかります。



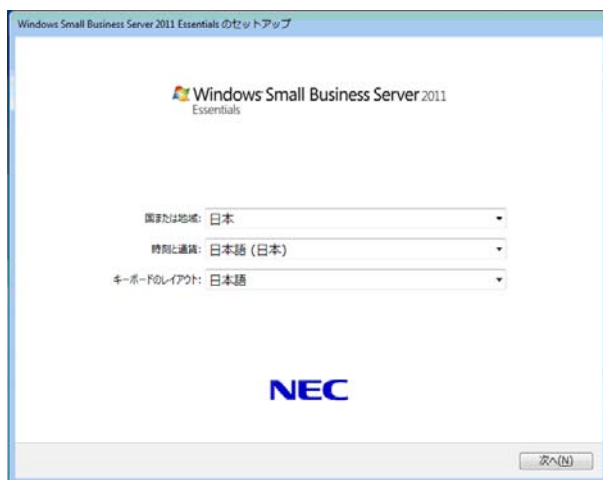
メッセージに表示される「ディスクサイズ」は、論理ドライブ 1 が自動的に選択されます。

4. OS インストール完了後、
以下のメッセージが表示されたら [OK] をクリックします。

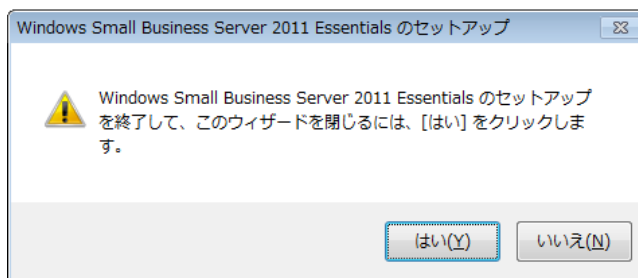


リカバリ DVD-ROM は取り出します。

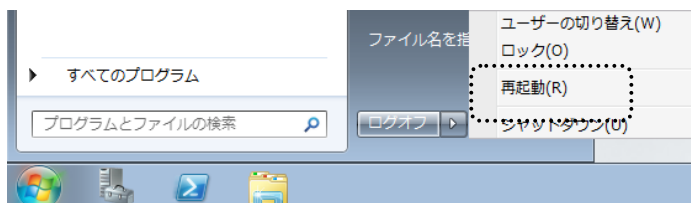
5. 本機は自動的に再起動後 POST を開始し、しばらくすると「Windows Small Business Server 2011 Essentials のセットアップ」画面が表示されます。
6. 次の画面が表示されたら、<Alt> + <F4> キーを押します。



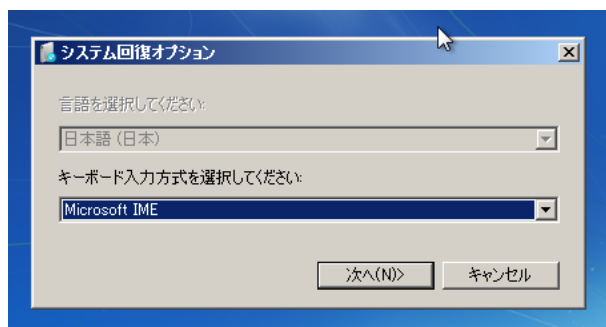
7. 以下のメッセージでは、[はい] をクリックします。



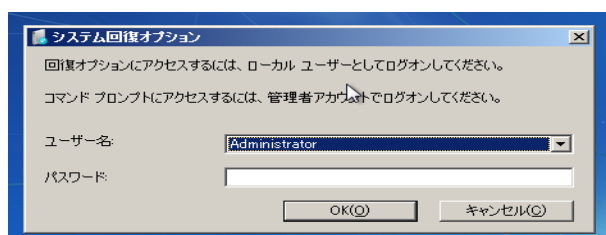
8. サーバを再起動します。
画面左下の Windows アイコンをクリックし [ログオフ] から [再起動] をクリックします。



9. **POST 終了後 <F8>キーを押し、「詳細ブート オプション」を起動します。**
起動後、「コンピューターの修復」を選択してください。
10. 次の画面が表示されたら、「キーボード入力方式」を選択し「次へ」をクリックします。

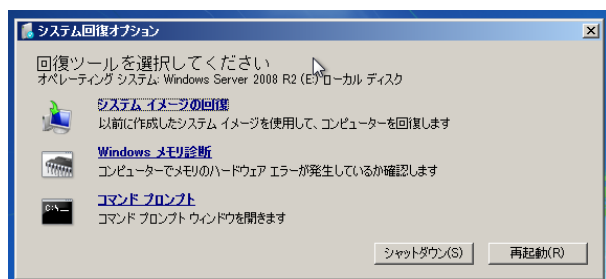


11. 次の画面で「Administrator」を選択し、パスワードを入力します。

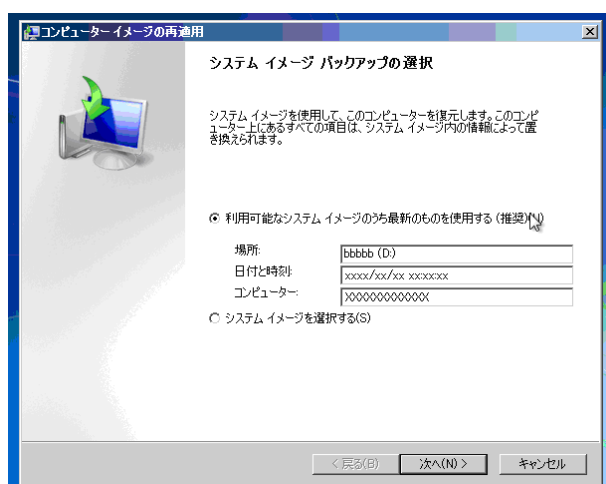


「パスワード」欄には「Admin」と入力します。

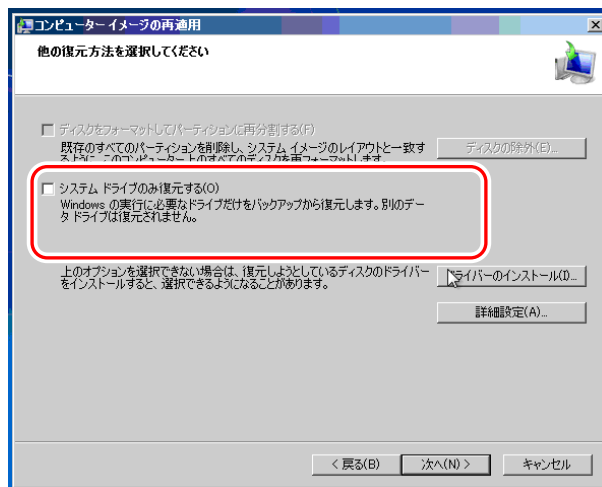
12. 次の画面が表示されたら、「システムイメージの回復」をクリックします。



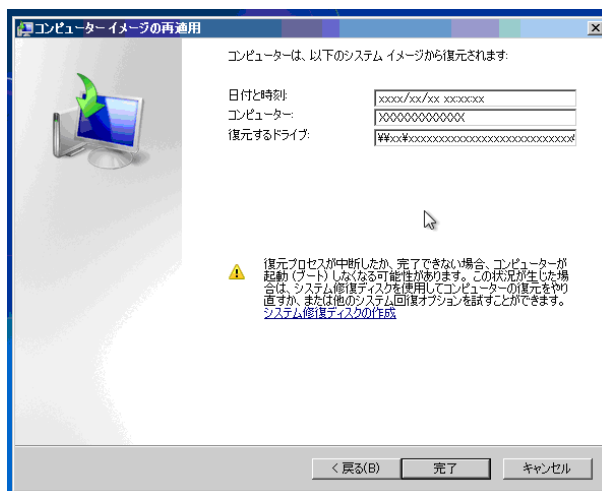
13. 次の画面でバックアップデータを選択し「次へ」をクリックします。



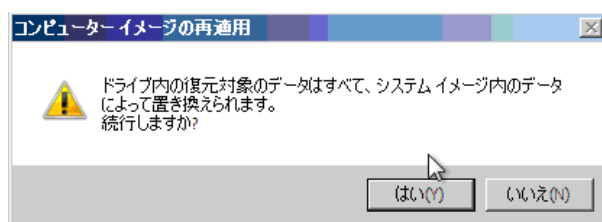
14. 次の画面が表示されたら、内容を確認し [次へ] をクリックする。
このとき [システムドライブのみ復元する] にチェックを入れないでください。



15. 次の画面が表示されたらバックアップイメージを確認し、[完了] をクリックします。



16. 以下のメッセージが表示されたら内容を確認し、[はい] をクリックします。



以上で完了です。

8 クライアントの修復について

同梱されている「クライアントコンピューターリストア」CD-ROM を使用することで、SBS2011 に作成したクライアント用バックアップデータからデータを復元することが可能です。

修復手順の詳細は、次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。

<http://www.microsoft.com/japan/sbs/technologies/document.msp>

第 6 章 バックアップと回復(クライアント PC のベアメタル回復)

9 パラメータファイルの作成（RAID 構築）

RAID 構築用にパラメータファイルを作成すると、再セットアップのとき RAID 設定を前回と同じ設定で構築することができます。

本書の「4 リカバリ DVD-ROM からの再セットアップ」の「■ RAID の設定」で使用することもできます。また「■ RAID の設定」でパラメータファイルを作成または修正することもできます。

■ パラメータファイルの作成

RAID 構築に必要な情報を設定し、「パラメータファイル」を作成します。
以下の手順にしたがってください。



パラメータファイルの作成中は、「EXPRESSBUILDER」DVD をドライブから取り出さないでください。

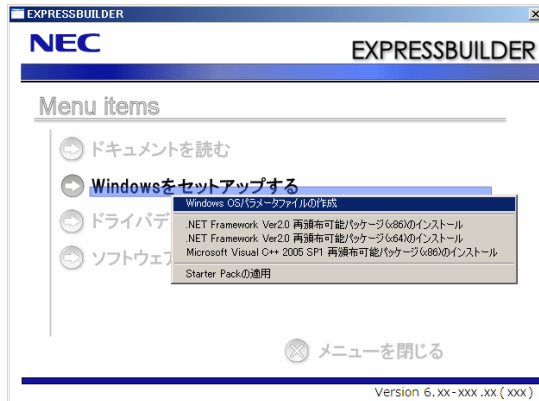


- パラメータファイルは PC98-NX シリーズ・PC-9800 シリーズ・PC-AT 互換機で作成可能です。
- パラメータファイルは次のように、Windows がインストールされた PC 上で作成、編集することもできます。
 - Windows Small Business Server 2011 Essentials
 - Windows Server 2008 R2 (フルインストール)
 - Windows Server 2008 (フルインストール)
 - Windows Server 2003 x64 Edition, Windows Server 2003
 - Windows 7
 - Windows Vista
 - Windows XP x64 Edition, Windows XP

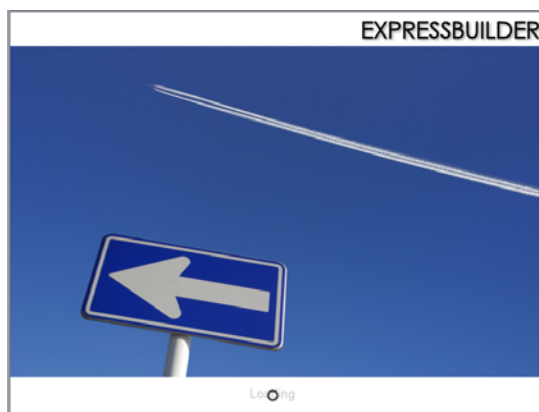
- Windows を起動します。
- 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD を光ディスクドライブにセットします。
- 画面上で右クリックするか、[Windows をセットアップする] を左クリックします。



4. [Windows OS パラメータファイルの作成] をクリックします。



以下の画面が表示されます。



- ☐ パラメータファイルを作成する場合 : 手順 5 へ
- ☐ パラメータファイルを編集する場合 : 手順 6 へ

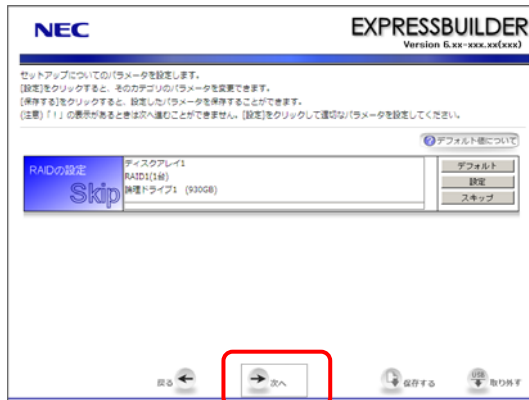
5. パラメータファイルを作成する場合は、[RAID 構築のみ実施する] を選択し、[次へ] をクリックします。
→ 手順 7 へ



6. パラメータファイルを編集する場合は、[パラメータファイルを読み込む]を選択し、[次へ]をクリックします。画面の指示にしたがってパラメータファイルを読み込んでください。



必要に応じてパラメータ設定メニューで設定内容を確認し、[次へ]をクリックします。



パラメータファイルのパスおよびファイル名には日本語は使用しないでください。

7. パラメータ設定メニューからセットアップについてのパラメータを設定します。
[設定]をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。



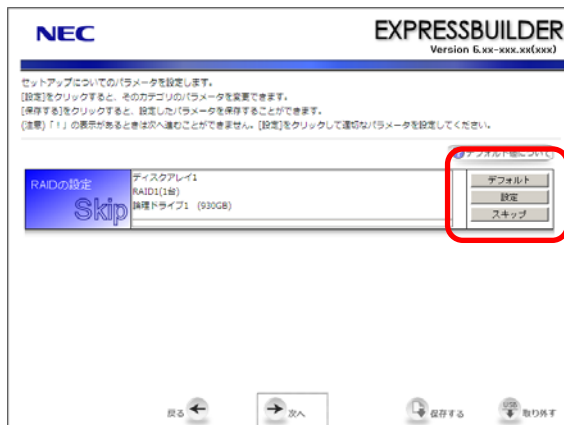
7-1 RAID の設定

接続された RAID コントローラを自動認識して RAID システムを構築します。



設定によってはハードディスクの内容を削除します。入力するパラメータにご注意ください。必要に応じユーザーデータのバックアップを取ることを推奨します。

RAID の設定は、パラメータ設定メニューの [RAID の設定] ウィザードで行います。



[RAID の設定] ウィザードで表示される物理デバイスの台数は、RAID コントローラがサポートしている上限値になっています。接続された物理デバイスの台数を超えないように注意してください。

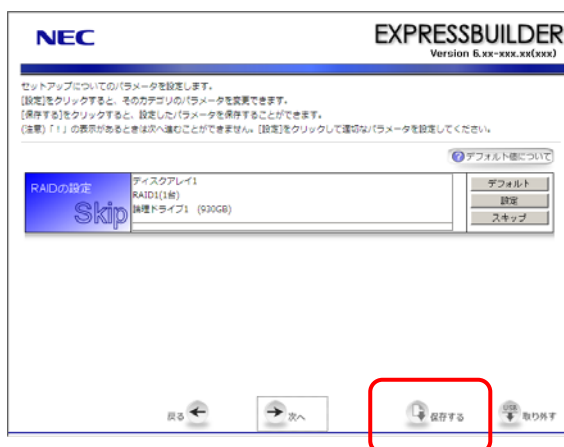
- (1) 「RAID の設定」の [設定] をクリックします。
- (2) ウィザードにしたがって論理ドライブを設定します。



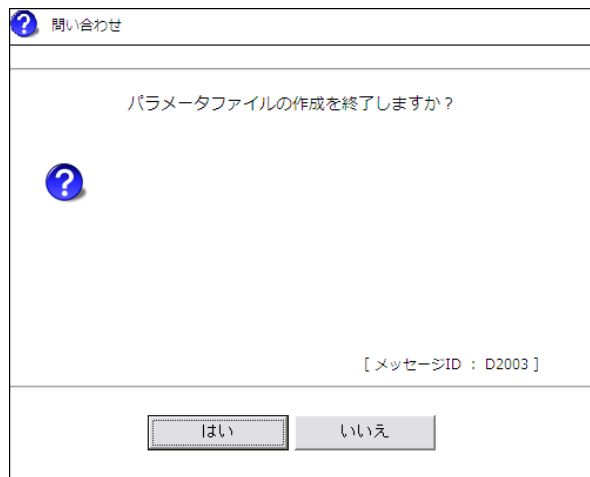
論理ドライブ1は、160GB 以上のサイズで作成してください。

8. パラメータ設定メニューで、パラメータを保存します。

[保存する] をクリックし画面の指示にしたがってパラメータファイルをリムーバブルメディアに保存します。



次のメッセージが表示されたら、[はい]をクリックしてパラメータファイルの作成を終了してください。



以上で、パラメータファイルの作成は完了です。

10 トラブルシューティング

本機が思うように動作しないときは、修理に出す前に次のチェックリストを参照して本機をチェックしてください。リストに該当するような項目があるときは、記載の対処方法を試してみてください。

なお、ここであげている症状は SBS2011 をインストールした場合に発生する可能性があるものです。

本書に記載していないその他の症状につきましては、お手持ちのドキュメントを参照してください。



イベント ID10154 について

以下のメッセージが Windows のイベントログに登録される。

イベント ID : 10154
ソース : Windows Remote Management
説明 : WinRM サービスは次の SPN を作成できませんでした :
WSMAN/<サーバ名>.local, WSMAN/xxxx

→ 次の Microsoft 社の web サイトを参照してください。

[http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd348559\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd348559(WS.10).aspx)